

私立大学研究ブランディング事業
28年度の進捗状況

学校法人番号	131031	学校法人名	学校法人女子美術大学		
大学名	女子美術大学				
事業名	染織文化資源研究拠点の形成				
申請タイプ	タイプA	支援期間	3年	収容定員	2440人
参画組織	芸術学部デザイン・工芸学科、美術学科、アート・デザイン表現学科				
事業概要	本学芸術学部工芸学科刺繡領域の歴史と伝統の中で培われてきた染織文化財の修復技術とその知見の蓄積を礎とし、ファインアート領域における素材研究、色彩学等他領域における研究等を学内横断的に結びつけ、「染織文化資源研究」の推進を本学独自の使命とする。津波被災文化財に実施している国内初の洗浄技術と理論の提示、地域文化資源の修復等を通じ地域貢献の一翼を担うとともに、今後の教育へのフィードバック、素材研究、人材育成を実行する。				
①事業目的	本学は日本唯一の刺繡の専門領域を持ち、伝統的な日本刺繡の技術伝承にとどまらず、染めや織を含む工芸研究によって、新たな美術刺繡の創造と染織文化財修復の両分野において、教育と研究、社会貢献の基盤を作り評価を得てきた。この実績を活かし、特長を強化して、染織文化資源について他の研究分野と融合した総合的な研究を行う「女子美術大学染織文化資源研究所」を発足する。				
②28年度の実施目標及び実施計画	【染織文化資源保存修復部門】 ・染織文化資源の安定化処理の精度向上 ・染織文化資源における非破壊による染料分析方法の構築 【染織文化資源研究部門】 ・大学収蔵作品を活用しての染織文化資源教育の標準化 ・本学が所蔵する染織文化資源の伝統技法の解明 【染織文化資源保存修復部門】 ・洗浄環境整備のための大型シンク、浄水システム等の設置 ・大学院授業における染織文化資源洗浄法の蓄積とその共有化 【染織文化資源研究部門】 ・染織品の伝統技法の解明研究のための機器・設備の導入 ・本学所蔵の染織文化資源の伝統技法調査・模造作品制作(1年目)				
③28年度の事業成果	染織文化資源保存修復部門 ○保存修復の確立 大学院「染織品保存修復演習」における女子美術大学美術館所蔵タビスリーの洗浄 本学紀要47号における染織研究の取組報告 陸前高田市博物館所蔵被災文化財の洗浄方法の構築 保管に適した環境、収蔵スペースの整備 長尺の生地洗浄に対応するステンレスシンクの導入 ○染織文化資源における天然染料分析技術確立と体系化 高速液体クロマトグラフィーによる染料分析 ○技術を伴った研究者育成 染織コレクションの研究整備において、修復に携わろうとする人材の素質や意思の検討を行い、29年度の育成計画に相応しい候補者を選定した 染織文化資源研究部門 ○染織文化資源のひとつでもある天然顔料についてのサブミクロン・ナノ領域粒子による応用創作研究 天然顔料についてのサブミクロン・ナノ領域粒子による応用創作研究の準備期間として28年度は使った。研究組織を構成し、応用創作研究に向けたおおよその分担を決め準備を進めた。 インクジェットプリンターについては試験機の導入について調査・検討し進めた。鉱物等の粉碎についてもその入手などを含め検討し29年度に向けた準備とした。また、関連して導入された走査型電子顕微鏡で繊維付着顔料などについて観察を行い、サブミクロン粒子での可能性を確認した。 ○染織歴史資料の色彩調査とアーカイヴ化 2次元分光放射輝度計SR-500の性能検討と情報収集、データ精度の検討を行った。デモ機による測色データを収集し、測定条件によるデータ精度の統計的検討、およびデータフォーマットの検討を行った。また国内の研究者と連携し、この測定手法に関する情報の交換を行った。さらに測色検討用の資料となるテスト用染織品を国内外で収集し、併せてバリのゴブラン工房を訪問しその一部を視察した。 ○染織文化資源の制作技術と材料の解明 JAM日本裂調査(友禅、吉祥模様) JAM日本裂(表装裂)の現状撮影(263点)一部解体、保存処置を行った。				
④〇年度の自己点検・評価及び外部評価の結果	(自己点検・評価) 本学を代表する研究事業として順調に研究活動を遂行している。私立大学研究ブランディング事業採択を受け、次年度に計画をしている研究設備整備計画をもって研究活動が飛躍的に高度化する予定となっている。				
	(外部評価) 陸前高田の津波被災染織文化財の修復活動は非常に評価されており、保存修復に係る技術的な評価を東京国立博物館より受けている。次年度以降は従来の外部評価に加えて外部博物館や研究期間の研究者、民間企業や所属する技術者から外部評価を受ける体制を構築中である。				
⑤28年度の補助金の使用状況	アンデス裂調査、染織文化資源撮影機材及び撮影PC及び周辺機器 日本刺繡針調査活動 他私立大学経常費補助(特別補助)として学内の研究活動全般に使用した。				